



読書に関する支出



- 家計調査結果より -

10月になり、夏の暑さも去って、秋の過ごしやすさを感じられるようになりました。この季節は、「読書の秋」、「スポーツの秋」、「食欲の秋」などと呼ばれるように、夏は控えていた様々な活動への意欲が湧いてくる季節でもあります。今月は、それらの活動の中でも読書に関する支出について、家計調査の結果から見てみましょう。

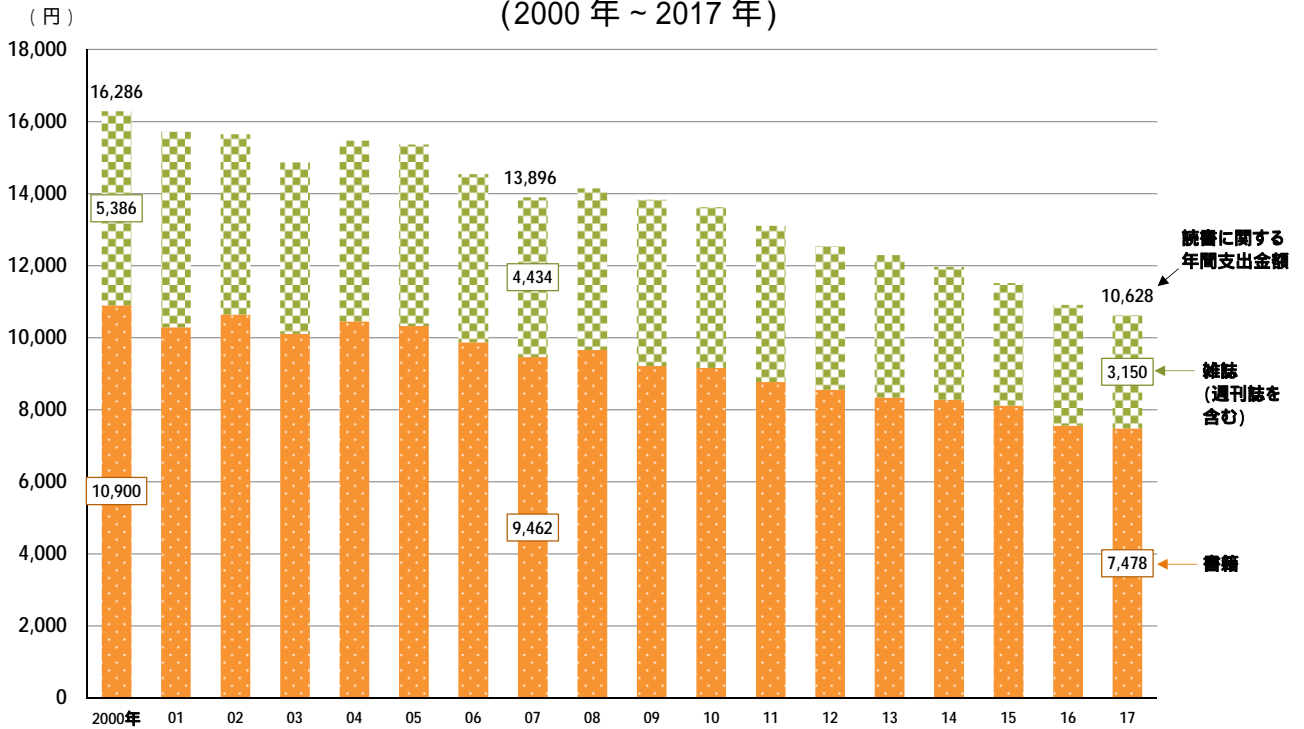
ここで言う「読書に関する支出」とは、「雑誌（週刊誌を含む）」及び「書籍」の支出を指します。なお、タブレット端末等を使って読まれる電子書籍の支出は、家計調査においては「書籍」には含まれず、「他の教養娯楽サービスのその他」として分類されています。

支出金額は10年前から2割減少

読書に関する年間支出金額はおおむね減少する傾向にあり、2017年は10,628円と、10年前（2007年、13,896円）と比較して、23.5%減少しています。

なお、内訳についても、雑誌（週刊誌を含む）は10年前の4,434円から3,150円と1,284円（29.0%）の減少、書籍は9,462円から7,478円と1,984円（21.0%）の減少と、共に減少しています（図1）。

図1 読書に関する1世帯当たり年間支出金額の推移
(2000年～2017年)

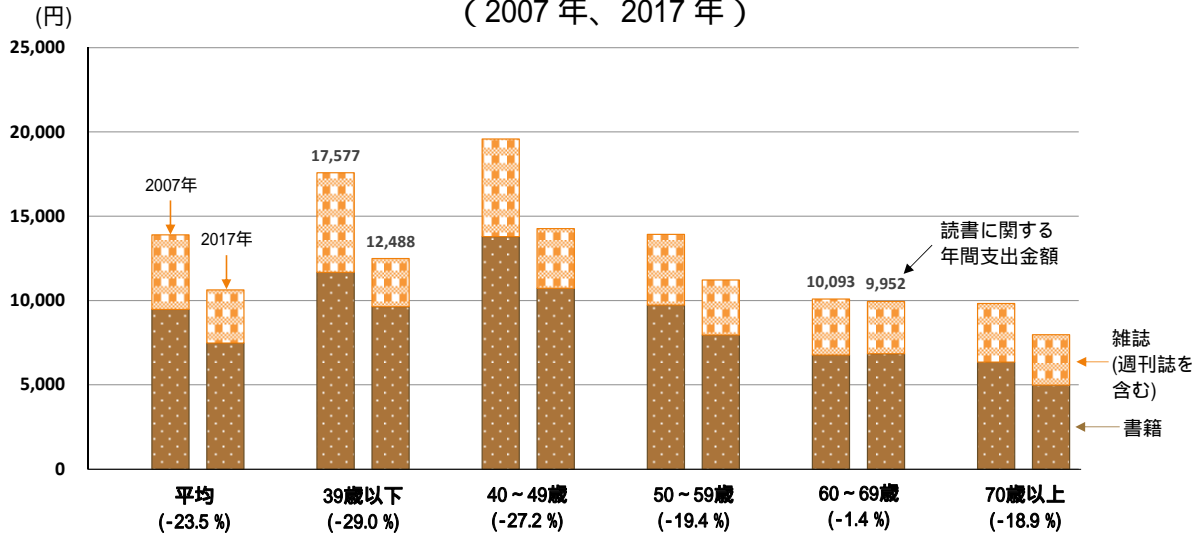


「39歳以下」は10年前から3割減少

世帯主の年齢階級別に読書に関する年間支出金額（図2）をみると、2017年は10年前（2007年）と比較して、全ての年齢階級で減少しています。最も減少率が大きい年齢階級は「39歳以下」で、29.0%の減少となっています。

一方、最も減少率が小さい年齢階級は「60歳～69歳」で、1.4%の減少となっています。

図2 世帯主の年齢階級別読書に関する1世帯当たり年間支出金額
（2007年、2017年）



（年齢階級の下に記載している値は、2007年と比較した2017年の読書に関する年間支出金額の増減率）

「電子書籍」への支出が最も多いのは「39歳以下」の世帯

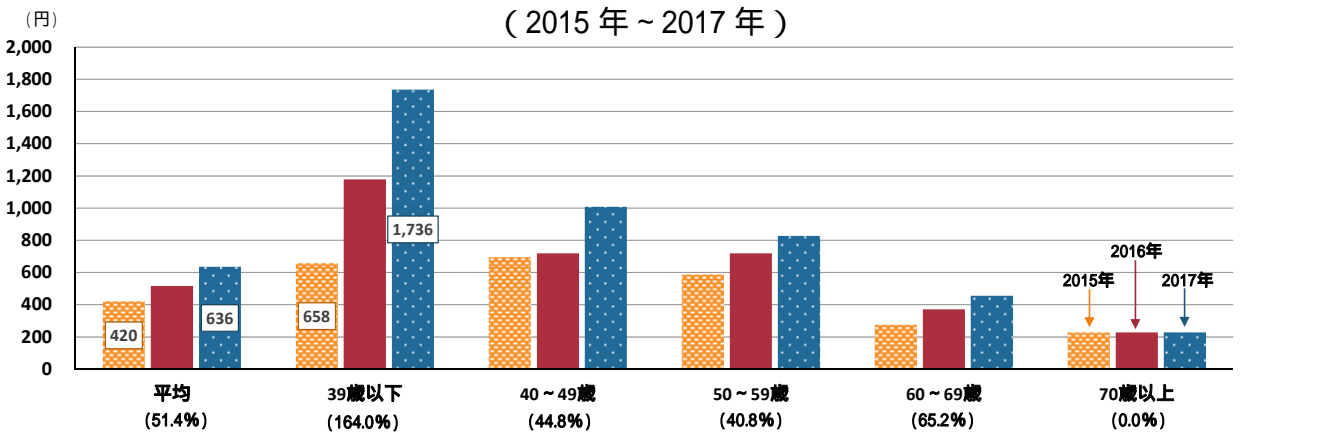
近年、読書の手段として、紙媒体以外に、電子書籍が普及してきています。

ここでは、世帯主の年齢階級別に、「電子書籍」の支出金額について見てみましょう。

総務省統計局で実施している家計消費状況調査の結果から、2017年の「電子書籍」の1世帯当たり1年間の支出金額をみると、「39歳以下」の世帯が1,736円と、平均（636円）の約3倍の支出金額になっています（図3）。
年間支出金額は年平均額を12倍したもの。

また、2015年と比較した2017年の増加率についても、39歳以下が164.0%と特に大きくなっています。

図3 世帯主の年齢階級別「電子書籍」への1世帯当たり年間支出金額の推移
（2015年～2017年）



（年齢階級の下に記載している値は、2015年と比較した2017年の電子書籍の年間支出金額の増減率）

出典：家計消費状況調査